＜山行報告＞

北アルプス・栂海新道縦走～8日間の記録～

【報告者】 みっつー

【日時】 2022年3月 23 日（水）～3月 30 日（水）

【縦走で最も難しかった崩壊した痩せ尾根（犬ヶ岳から黒岩平方面）】

≪コースタイム≫

3月23日：親不知観光ホテル 07:50～14:44 坂田峠手前の 659m 峰頂上

3月24日：坂田峠手前の 659m 峰頂上　07:23～13:45 白鳥山避難小屋

3月25日：白鳥山避難小屋 06:43～17:18 栂海山荘避難小屋

3月26日：栂海山荘避難小屋にて1日停滞

3月27日：栂海山荘避難小屋 11:00～14:48 黒岩山手前 1612m 峰稜線直下

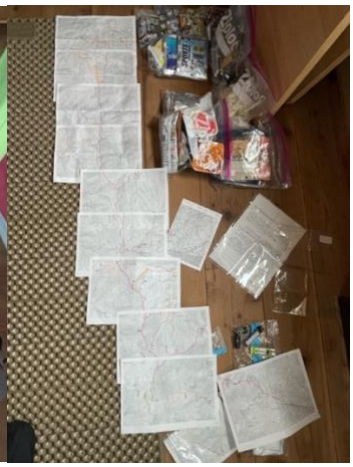
3月28日：黒岩山手前 1612m 峰稜線直下 10:01～16:14 朝日小屋近く

3月29日：朝日小屋近く 06:47～12:47 雪倉岳避難小屋

3月30日：雪倉岳避難小屋 05:37～11:22 栂池パノラマウェイ自然園駅

≪報告≫
以前から1週間以上の長期積雪期縦走をやってみたいという願望があり、大幅な休みの取れる大学最後の長期休暇を利用して北アルプスへ行くことに決めました。「栂海新道」は新潟・親不知から白馬岳という、 海抜 0mから標高3000m級の稜線へと繋がる素晴らしい縦走ルートです。インターネットで調べても積雪期の記録はあまり見つからず、事前の準備を含めて大きく苦労しました。しかし、その分やり遂げた際の達成感は大きかったと感じています。
学生ということもあり青春 18 切符を利用して新潟の親不知まで2日間かけて行き、帰りも青春 18 切符にて帰ってきました。想定コースタイムは 8 日間で、予備日は 4 日間の計画で出発しました。結果的に 8 日間で縦走を終えることができとても良かったです。

装備は、積雪期のテント泊の標準装備に加えてヘルメット、
ワカン、緊急時用に簡易ハーネス・5mmのスタティックロープ 20m・スリング・環付きカラビナ数個を持参しました。ザックはグレゴリー・バルトロ 75 リットルです。



【ザックに入れた装備の様子・紙の地図は予備も含めて 20 枚程】

【第 1 日目】
栂海新道登山口で、最初から全く違う向きに進んでしまい焦りました。なんとか

ピンクテープを見つけ正しい道に復帰。見事にアスファルトの道に騙されました。栂見新道登山口では、漫画「孤高の人」で出てきたように鳥居があるのかと思ったが小さな柱があるだけで少し残念でした。標高 300m 過ぎから雪道でしたが、それまでは結構土の道でした。尻高山までがこの日の目標だったのですが、思ったより早く着いたので更に進むことにしました。トレースはほとんどなく、動物の足跡が沢山ありました。

【第 2 日目】

この日は、最初の方に出てきた標高差 300m 程の急登が大変でした。しかし確実にワカンを蹴りこんで淡々とラッセルしていけば意外とすぐ越えられました。「塵も積もれば山となる」という言葉を実感しました。ただ、ワカンに大量に付く雪団子には苦しめられました。ラッセルは足首ほどだったのでまだまだ大丈夫でした。時々木の近くを通った時に、腰まで踏み抜くこともありましたが、、、

また、白鳥山山頂直下では 1 部うっすらとトレースがありました。白鳥山はとても綺麗な山でした。山頂付近は非常になだらかな斜面となっており、登山者も少ないことからノートレースでの雪稜ハイクが出来る所です。雪質も初めの急登とそれ以降でははっきり変わりました。初めは、シャーベット状だったが、その後クリーム状に変化しました。

【第 3 日目】
この日は朝からずっと快晴でした。最初はとてもテンションが上がりましたが、歩くうちに暑いのと雪がグズグズになっていてあまり良いものでは無いなと感じました。雪がグズグズだからか、ワカンに半端ないほどの雪団子が付いてしまいピッケルで叩きながら進むことになり大変苦労しました。また、この日の白鳥山から犬ヶ岳までのルートはまあまあのナイフリッジやクレバスまであり結構痺れました。この日は登山靴の中まで濡れてしまい、栂海山荘避難小屋到着が夕方 17 時過ぎということもあって本当に体力も気力もボロボロだったので、栂海山荘避難小屋の入口が大量の雪に埋まっていて絶望しました。しかし、上を少し掘るだけで扉が開いたので本当に助かりました。避難小屋の箱には多めに協力金を入れさせて頂きました。この日からは遂に持ってきたジェットボイルガス缶小が無くなり、最後のガス缶大に切り替えました。この日から先、とにかくガスの残量が心配でした。尽きたら水を作れなくなり進退極まります。

【第 4 日目】
この日は午後から大型の低気圧が来るようだったので栂海山荘避難小屋で停滞することに決めました。前日 18 時頃からすぐに寝入ってしまい、この日は朝 5 時過ぎに自然に目が覚めました。ラジオは今までの宿泊地点全てで問題なく繋がるので寂しさはありませんでした。この日は昼頃から天候が崩れる予定でしたが、午前 9 時頃から雨のようなものが降り始めました。この日は一日中することが無かったので、午前中は避難小屋の清掃と昼寝・午後は荷物の整理等を行いました。
【第 5 日目】
朝 2 時 40 分に起床。ゆっくり準備して明け方を待ちました。昨日雪・雨が降っ

たので雪崩の危険があることから明るくなってからスタートすることにしました。午前 9 時になっても雲が晴れずに焦り始めましたが、雨は止んだようなので出発する準備だけとりあえずすることにしました。午前 9 時過ぎに犬ヶ岳山頂まで偵察に行ってみると、ホワイトアウトしていたので絶望して今日も停滞するかと考えていましたが、そのうちみるみる雲が晴れてきました。すぐに栂海山荘避難小屋に戻り、ザックを回収し正式に出発しました。やはり、前日の雨が祟ったのか雪がグズグズだし結構溶けてて土の地面や潅木がむき出していました。一晩で積雪期から残雪期へと移行したようにも感じました。犬ヶ岳からサワガニ山までは崩壊した痩せ尾根も多くとても通過が怖かったです。ただ痩せ尾根のゾーンを超えたあとは、雪稜をひたすら歩く形となりとても気持ちよかったです。ただ、そこら中にクレバスというか雪の裂け目があり気は抜けませんでした。4 時間ほど歩いたとき、どんどんホワイトアウトしだして全く視界が効かなくなってしまいました。天気予報では夕方まで晴れだったのに、、、山だから仕方ないのかもしれませんが、、。急遽稜線直下に幕営することにしました。ちょうど木が少し密集している部分があったのでその中に幕営適地を探しました。ちょうど最も良さそうな木に囲まれた場所に誰かが半雪洞のようなものを掘った名残があったので拡張してダブルウォールテントを建てました。

【第 6 日目】

この日は朝から何度も目が覚めました。あまりの強風でテントが揺れまくり倒壊の恐怖に怯えながらの朝を迎えました。やはり稜線直下にテントを張ると大変です。朝 5 時過ぎに起き、天気予報の昼には晴れるという予報を信じてひたす

ら待ちました。午前 10 時前に吹雪が収まったので、ホワイトアウト状態ではあるがスマホの GPS を頼りに進むことにしました。本当はホワイトアウト状態が収まるまで待っていたかったのですが、どうやら地形的にずっとホワイトアウトしている所のようにも思えたので進むことにしました。この日のルートはひたすら雪原のようであったので雪庇に近づきすぎて滑落するリスクは無いためホワイトアウト状態でもスマホを頼りにして行けると判断しました。また、もしスマホの電源が寒さで落ちてしまった時にはその地点で即テント泊を行うことに決めていました。出発してから黒岩山までは雪庇が張り出す斜面が少しある可能性があることに気付いたので潅木を目印にしながらなるべく潅木のそばを歩くように心掛けました。基本的に平らな道が多く、一昨日の雨で雪が凍っていた為ラッセルもほとんど無く非常に快適に歩くことが出来ました。天気予報ではこの日は昼前から晴れるはずだったが、結局標高 2000m をこえるまではずっとホワイトアウト状態で、超えた瞬間に一気に雲がなくなり晴れ模様となりました。あのまま晴れるまで待っていたら永遠と停滞することになっていたかもしれません。
長梅山を超えた辺りで、初めてスキーヤー(人)にお会いしました。僕とは逆の向きに梅海新道を行くようで情報提供を少しして別れました。この後朝日岳を超えて朝日小屋に向かいました。もしかしたら冬期小屋があるかもと思っていたのですが、存在せず小屋の近くにテントを張りました。夜は風もなくとても静かでした。ただ、日焼けで顔や唇がただただ痛かったです。この日には縦走の終わりが見えてきたので、縦走中、最も心配したガスの残量についての懸念がなくなり心置き無く使えるようになりました。

【第 7 日目】
雪倉岳周辺はどこも強風で大変でした。他の人の記録でもそうなので、そういう地形なのかもしれません。雪倉岳への登りの際に通過した雪渓のトラバース及びそこからの斜面の急登はとても辛かったです。急登は、1 度滑り始めたら遥か下まで落ちていくような地形だったので精神的な負荷が凄かったです。雪倉岳の頂上付近は雪がほとんどなく地面が露出しており、雪倉岳避難小屋も全く雪に埋もれていませんでした。この日はあまりの強風ということもあり、テントを張るのを諦め避難小屋に入ることにしました。雪倉岳避難小屋は避難小屋としてはとても快適でありました。最後にこのような綺麗で快適な避難小屋に泊まれて良かったです。なお、明後日には大きな低気圧がくるようだったので白馬岳には行かないことに決めました。また、別のルートから行く機会もあると思うことにしました。
【第 8 日目】
この日は、次の日に大型の低気圧が日本に近づくため何としても目標地点の栂池高原スキー場に辿り着く必要がありました。朝は 3 時になんとか起きましたが、そこからダラダラしてしまい出発 5 時が 30 分遅れてしまいました。実は映画「岳」のテーマソングをかけてモチベーションをあげたりしていたのです。結果的に、雪が結構溶けていたり、半分くらいは砂利の夏道を通ることになったこともあって昼には栂池高原スキー場に到着することが出来ました。白馬大池付近でスキーヤーの方に写真を撮って頂き、Facebook の友達にもなりました。どうやら写真を専門にしている方のようです。スキー場直前の白馬乗鞍岳以降はスキー場のゲレンデかと見紛うほど綺麗な斜面で、人生で初めて本格的にシリセードで下りました。(実は今までする機会もなくは無かったのですが、ハードシェルが傷付くのを恐れて出来なかったのです。今回もはじめはアイゼンでゆっくり下ろうと思ったのですが、縦走最後でくたくたなのと斜面の雪がグズグズなことから最早ハードシェルについて気に掛ける心の余裕がなくなりシリセードを敢行しました)ピッケルでちょくちょく制動をかけながら滑り下りましたがそうとう楽しいものでした。栂池高原スキー場までざっと 30 人くらいのバックカントリーをされる方とすれ違った気がします。結構話しかけられ、栂海新道について知っている方も多くおられたのでとても嬉しかったです。最後の最後にこのような楽

しい場所で今回の縦走を終えられたのはとても幸運でした。

【白馬・不帰・唐松へと続く縦走路を望む】